



又

今歸の集林之部

初秋

林風のふりこも地潤すれ
は多し木北葉をいひもや杖の
外乃世堂いづれあふの境

閑居

薄。力をとほるふれりや杖の

葛

和勝林寺藏書



下

嵩の何れにありて嵩の葉はうら夜

宗祇の廟

石塔とありては体は二葉の耶

市中

倉とて杖ありては乃竹菴の耶

七夕

さ萩のやうにやうにやうにこの川

折舎たの妹うさん待たせり

係一倉和暫中も経ひの葉うら

大伽藍造管ありてはるの

しら白きくおうに待たせり

葉皮根の肩より山にうら

ゆもあつてはるのあつても

ちくあつてはるのあつても

上野よりとるやうに銀河

流るのけうとて浮やうに星使

名所の松とてあつてはふり
セツも隙と思ふうらま世う那
セツや如る辰川にふ牛車

防鴨河使

聿越や人目けみの何は
流の事おかしうさく
あやもたひと秋う糸この川
あ後うえや隅田川糸の楊柱

あつたを洗ふ人の川
あま井あんとこの御鞠いもの
村の立むらむこれ田夫いあ
あ流うくあうあうあ
ああ

杜のうらうらを聴く立ち

傳

あつたを洗ふ人の川

磯原中の林... 品二(二里七付)...

お... どの林草... 一...

洗

潜... 洗

虫

...

乃... 乃...

...

...

何... 何...

茶碗銘

黒茶碗あり花の如きまじく
く後を嘗たるをいへば
有侍ち其のやをまじく
皇をまじく
先づのありて

檢校 貧僧 大黒 小く後

とらふ子 まあひ 小あを

三代目とていふ
くはれりて味あり
志ありて

松山 ありていふ
唐舎本音ありて
也獄をらりて
此處の温化蝶暗の類
きりて

おのぼり御息よいふおまへへす

お歌

糸の葉を捲ひのうけよ露のま

十歳よりぬるる童の才はうに

駒丸りのもこのまも未乃露

くすし権隈く

いまうまたきしあはれおの目

鶉尾

まごまこれおひや葉鶉尾
味物と煮るへ喰ふと食ひ鶉尾
鶉尾を空のたききん燗の命

西氏

おひしつをともへつるあはれ

書掉

尸うぬ拮掎かゝるおれあへ

蓮の骨あはれおれあ女の尸命

朝史とさうふ

蓮の愛れ花とさうふ

同一周忌

甚くばいふりやう一月忌

里右の娘りしあひまふ

鬼斬のさきんを法をも歎か

盆會

魂柄をさぬも後まのあふ部

魂系母屋の妻戸の音ハ何

倉も結も皆あくさー魂系

くあ戸柄や皆らあくとか子何

初あら略

きほあう家、乳のくわこあう

九日のさたまのさか那のたせ

の冥遠子かあつたあさこて

ほ中一のあゆまあつたの美

をい免く魂をさすや
傳る。

あしりく物とあつらふはく體
靈極の西采をさるんといの向ふ
あしりくあはれとあかえき
あきまのなれとあまの千日
さしきまのあまのさしきま
あまのさしきまのあまのさしきま

運縁よとあまのあまのさしきま
まると改名元書月照と石の
塔のあまのさしきまのあまのさしきま
とあまのあまのさしきまのあまのさしきま
あまのあまのさしきまのあまのさしきま
あまのあまのさしきまのあまのさしきま
あまのあまのさしきまのあまのさしきま
あまのあまのさしきまのあまのさしきま

大みまの白きもあはれ
雪のうら後のあらしなり

山の雪を雪もあはれや大みま

おぼ

角力とくち並みあはれのかし御

あはれとあはれ下らばあはれなり

鳴る系のももあはれや 藍白

あはれもあはれはあはれ モスのあはれ

蘭袍同肆

盗るる草やと倉乃義の下

秋言

立ちくくく後あや秋のうら

ももかしく昔面くらす秋の言

あはれく起く又あはれく足ても秋の言

あはれの言る山もあはれ 澄きあはれ

定家

舟^{アゲ}と海屋の杖乃々^{アゲ}即

卓折言上人^{アゲ}岩室

燕乃^{アゲ}かつら^{アゲ}ありか^{アゲ}の^{アゲ}画

仕^{アゲ}と^{アゲ}鳴

目を^{アゲ}お^{アゲ}む^{アゲ}海士^{アゲ}の^{アゲ}ゆ^{アゲ}る^{アゲ}也^{アゲ}初^{アゲ}の^{アゲ}一

江^{アゲ}の^{アゲ}島^{アゲ}の^{アゲ}穴^{アゲ}さ^{アゲ}う^{アゲ}ち^{アゲ}也^{アゲ}杖^{アゲ}の^{アゲ}夕

霜^{アゲ}の^{アゲ}国^{アゲ}の^{アゲ}好^{アゲ}ま^{アゲ}合^{アゲ}好^{アゲ}ま^{アゲ}と^{アゲ}

結^{アゲ}ち^{アゲ}舟^{アゲ}の^{アゲ}舟^{アゲ}け^{アゲ}て^{アゲ}音^{アゲ}の^{アゲ}下^{アゲ}れ

や^{アゲ}ら^{アゲ}り^{アゲ}る^{アゲ}傳^{アゲ}り^{アゲ}秋^{アゲ}葉^{アゲ}の^{アゲ}笛^{アゲ}子

取^{アゲ}及^{アゲ}て^{アゲ}し^{アゲ}れ^{アゲ}ぬ^{アゲ}唯^{アゲ}も^{アゲ}ハ^{アゲ}好^{アゲ}ま^{アゲ}

の^{アゲ}本^{アゲ}の^{アゲ}る^{アゲ}者^{アゲ}き^{アゲ}ん^{アゲ}て^{アゲ}よ^{アゲ}樂^{アゲ}人

る^{アゲ}れ^{アゲ}て^{アゲ}博^{アゲ}し^{アゲ}あり^{アゲ}社^{アゲ}傳^{アゲ}

す^{アゲ}ま^{アゲ}の^{アゲ}似^{アゲ}て^{アゲ}出^{アゲ}る^{アゲ}神^{アゲ}の^{アゲ}

と^{アゲ}ゆ^{アゲ}る^{アゲ}の^{アゲ}岩^{アゲ}を^{アゲ}た^{アゲ}り^{アゲ}階^{アゲ}下

を^{アゲ}ま^{アゲ}る^{アゲ}の^{アゲ}松^{アゲ}の^{アゲ}氣^{アゲ}を^{アゲ}好^{アゲ}ま^{アゲ}

と^{アゲ}あ^{アゲ}ぬ

下
馬帽子のさくら白雲の霞田の

月

名りや柳の枝を空へ吹く
名りや柳遠く水のこゝろ

旅白

銭矢立をりて丑とよおをを
は合ふ岨の松の卯の月
おたけの松を書きしうらみの月

ふ折新巻さし戸かきをか

く子巻の根を積むすゝ一客

名有りは癖もおのほは梢の卯

のりや先は血染くさるまを巽

海も山も村もあはれとくあの子

清涼茶屋の河をたぐり

ふとがしきらの中み

新巻や肉は茶乃株の卓

名身や秋人の誓のなまじうござ
まら路の吐キヤツとふるつこまの舟
名身此國交村を男の如
土真子船もらあはる舟
いよらの船かまうのつ
松江の船橋わらわ
俎板をありとまはる
路物ちり江のひま

心よおももよかたなあれ
まの可カいしりの舟
あつたぬきり

秋くち歌とすぬの舟
名りら絶きる飲の舟
初出あり歌

早し雲も名舟の舟
鎌倉大佛

的存ら南をどけきり佛頂珠
名存や海一ふぼる病の夢
言笑い存る人よんさげり
いも去の泥足免つらさ
顔もく月あしぬらつハ物を
おろかり伝るなり

新存の心をえなり夜燈の筒
明存や乃公の名のおまらるき

就平といかすらあふ存るなり

初まを歌

跡ふ採る牛の思さを秋の存
とこから育の小貝、磯の存

信濃僧の案

君事乃福にせん信濃のまき成

初まを書

新酒

赤もどろ新馬を人の醒もまた

歌志

とせ初や水村山廓酒籠は
河一の物やおちと唱ふを海も
本聲の壺を醒さるる香がうめ
八九存何れやいつこのおとさる貝
旭もく世の中は田もアサヒもあ
あつてもも粘さいりりな山里を

柿栗

いとう様志小柿くさ龍八詠

詞志

於石よ志小柿をぬる舞の如
迷栗やゆよさけさる法の場合
秋のくれ井身の柿方かきさるく舟竹
とつめく土産柿くれり
人丸の柿の炭山の色の栗方

かゝりおのほものゝあまのあり
と矢真一海

極のわたり形の出の本は家かん

標菊

林圃子考焼する目とたぬぬの光
くち中なるお所かきぬを板草

菊

秋の菊やかゝるの頬のふきかき

指よる風をきくくふの茶
蒼浪子のそとたえりり茶の岸
一々福りくひるもこそ菊のあり

菊九章
其一九日

茶のそとつあつてふむ九日

其二 素堂亭のしんく茶

かくれおやまの茶の中よまの茶

其三 百菊を拵けらに

其の菊白菊と外の名はなく

其四 名所の菊

白きく此 総舎やす後を存る谷

其五 昔のたけのこやいや、あるい奇の

名所の菊と菊七尺のちる免の卵

其六 琴

琴のち神る菊とちるちるく 籠る

其七 棊

菊のふら又棊のまげー入やん

其八 書

菊を抽^{ニホル}芭蕉も祢のれ菊の児

其九 盃

菊さげと樽もく 盃へ繪の具四

京より切の詩人信とて志の

山越とす。こち

志が越とありー 襦や菊のむ

新のそをのしと見ゆきくは昼
おの兼枝、ちをいとおさかも
給の兼子と給、餘る胡蝶水
城さき一様と福あるや、兼の母

下圓哲と遊ス

きくは兼子と給、山溪の雪鶴水
山溪あるあちや兼小板きりけ
きくは兼もまゝに兼子と給の魚

きくは兼もまゝに兼子と給の魚
兼子と給の魚、兼子と給の魚

兼子と給の魚、兼子と給の魚

兼子と給の魚、兼子と給の魚

兼子と給

袖つらにもつれ、兼や兼の時白
兼子と給の里を翻す、兼子と給

兼子と給

兼子と給の里を翻す、兼子と給

莊子標本の太きい半さむす
糸糸の碎せ糸を一寸とや
化せしれんと放散逍遙の多え
むしりあり

ちりりちり二糸のほや板糸糸
去るまじとて

苦の業やはこの力ありかむ時
病床の虱をとる辨

あゝ此が此毛のちりり
襟の糸をさしとてはが飯
ほぶのまゝある物さすりや
きり疾くまはし上の赦し
とぬちめり糸二重の糸して染が
糸はと糸のいんた白く肉
黒く腸呼吸しはせし動揺
いり眼さすりくと糸をいり足

いと拙なれ真如の中へ
質を請く禪の潜りぬの
光りかきれく人た血氣を
犯し吸ふと蚊子の鐵牛
を嚙むよと於ましとせ
涯の流るる所を火とりた
中よ油さりとありと花い木
枕の角よかき死をいけ

さぬさも及真如の性乃
うてる事や摩竭あよとら
とる魚乃大百由旬よりセウ鯨
鰻の微細あるまて行きてと
憎愛かき事れとあり
凡かに肉裏のそれ祈ける
心よこの所町の光よ一夜
あらし捨てしきるに物の化れ

うと治りりささる知微の肌
下馴まらしく徳をおれ
しういひるもさうへさ
周縁のや桂乃穴おせをたぐ
久々同年の悲人の報小
ともはもつれさ川いふいし
せんとかうあひのり鎌より
あうとさうもたもあうり

あはれとさうもたもあうり
こいもさうもたもあうり
くしあはれとさうもたもあうり
せしあはれとさうもたもあうり
よるもさうもたもあうり
雲のうもさうもたもあうり
あはれとさうもたもあうり
あはれとさうもたもあうり

くはく集るる部

瀆大黒

神の爲に能く女房をとる部

十月懸

きりくはく集るる部

風

本がりの権の柄乃多段の部

お川亭より

あゝ〜これわつらまの〜庭

芭蕉翁回郷

風の吹は〜うも〜
一葉ちり〜ちり〜

此の句

みよと前々〜は〜あま〜に〜
深谷や〜の〜

山菜も

よわのよわあ〜書も消〜

延喜帝

多岐の國出の民〜
く〜秋の〜
ぬ〜

脱〜下れ〜

京の

中〜

足踏も起る寝る秋陽も切膚に

炉

炉の火の目を志見ぬと古き

法華を写す所

沈著世樂無有慧心

けし免と扱ものゝぬ火爐に

その日おさそと

見えよや我のいとと莖の楯

ふまゝの川人の有赤大根

午とりの一子記

萱原や拈ゆけり馬の陰囊

水鳥

鈴鴨のあやうい海も舟も

藤よ何をも答へりけりか

汀水

鴨おしるあまし歩む水鳥

F

追夷傳

鶴伴をつい^いく^采蔽^いり^采あ^いる^采か^いれ
あおの^いち^采や^いつ^采お^い生^采美^采味^采愛^采

十月廿五日共挑隣出氏江而暨

義仲寺望芭蕉翁之墓歎唱

上略

あおの^いち^采の^いし^采つ^采く^采よ^采の^いの^采り^采

義仲寺の^い家^采上^采よ^采い^采ま^采ら^采く^采空^采華^采

蔽^い水^采丹^采う^采ら^采屋^采守^采時^采心^采鏡^采

一^いを^采ま^采を^采い^采ま^采し^采も^采万^采象^采ま^采く^采う^采け^采

け^い師^采この^いた^采お^采わ^采く^采う^采う^采を^采

利^い他^采を^采利^采と^采候^采と^采其^采種^采

不^い竭^采今^采も^采也^采あ^采ら^采も^采も^采ち^采は^采な^采

け^い下^采あ^采く^采祿^采む^采ら^采ん^采ち^采あ^采か^采け^采

十月廿二日夜

十^い好^采を^采ま^采く^采は^采く^采色^采は^采ら^采く^采る^采の^采

四七日題符三物

本かりの指し訓候、養と、笠

十一月十二日初拜忌

位中一の多き業じしり 耐入り

元禄乙亥十月十二日一周忌

長人の襦をこ魁めし御豆所

七回忌

お祭時西おれも出りや坐興庵

十三回

不くの蒲団よのち。本奥に

歸依法 肉色の業と吟よ

飯のやよ膳と立す。あけ懸に

海嵐

海嵐吟よ六さぬ影も枯かお傳を

海嵐もよも出りし世也独作

塀さゆしぬも下

ふらりし石をみお引しり

神系

から〜舟渡の折（折）の御火白くた

雪

門の昔印したるひのすゝの部
外一の昔百歩の馬を足まがせり
物もやよふあゑしやよゆゑの猫
物や〜襦袢〜ね白丁を
佛薬池の〜ちと〜お〜たり

きあめさ〜嶽よりわすれぬ
南門のからと〜知りなくあそ
〜り〜れと

か〜花の昔も〜ほ〜り〜
菓子の盆や〜も〜せ〜ら〜り〜
は菴のよ〜え〜ら〜や〜の〜
花の〜し〜ら〜の〜
今の雪田より〜め〜た〜

~~~~~

船泊の舟も静かたしと風の音の  
明是ちを食もたさうもこの人  
音中に音を投じあつたは  
音らまうたはたの葉の音も  
け音もつたはたの葉の音も

寂

武士の足く、年くあつたか

静かたしと風の音の

陸

今かたしと風の音の

画

畑中より静かたしと風の音の

歳

山伏乃見くは木立の音も  
古足音の四十の足音も

在ぬらひのうらみ

おきこの餅の赤いおのき

おきこのやほれ笑ひし

と一叔輓歌一曰力氣

又けおさすく字世のあ

とせり菫の芭蕉といま

らかきる秋桐の葉

のしおのき一始

あんなおのき

鉄おとよむ人抱

慰女房

三盒子

古曆何まへ

思及すく妹つくろい

五十とりの古猫の

あかり

く海くみこもりもつなま  
いふ南白の刀をのしんを  
幸一のりくも言ぬ

ういも姑猫ちんちんよとりの言  
朝の松梅を標に物屋のな  
豆とさくつぬさ果物こりやけ  
けむら家とひささのひさの伝  
のりくまも眼をさくつのは

蒼蒼うもく眉白の言  
拍猴のてまをわさのり

辞世

東ちん。吐一ちん。物り

寛延三庚午正月 百萬首原 校訂

# 書林

大坂心齋橋順慶町

澀川清右衛門

京堀川錦上町

西村市郎右衛門

江戸本町三町目

西村源六

## 文刻堂 壽梓目錄 江戸通本町三町目 西村源六

民家分量記 常盤貞尚作 全五冊  
土農工商の身持はとひ  
くふてあつて

徒然草鉄櫃 全四冊  
青木宗胡著

今川腰越狀 全一冊

野總茗話 同作 全四冊 右之後篇  
神儒佛の大意とむ  
かかしてあつて

時勢世話談義 全五冊  
風流とて本

御家流消息 建部賢文筆 全一冊

民家童蒙解 同作 全五冊  
分量記の後篇人の教  
并孝行乃物語と記を

俳諧吾妻海道 奥州松島塩釜合衆  
等々の記并巻物

初学消息集 玉置茂八筆 全一冊  
多用珍事全書と其の消息  
はなはたあはれとあつて

田舎莊子外篇 伏齋橋山作 全六冊  
虫のたぐひを以て人の世の  
若手とてあつて

俳諧續五色墨 全一冊  
出来

假名文章 同筆 全一冊  
為世のふかむ世のひ  
あつて

河伯井蛙文談 同作 全三冊 右之後篇  
くつと龜の同答を以て  
同く人の心とて

武家軍談 全三冊  
ひかかると

萬要書札 同筆 全一冊  
書札法式とあつて  
孫家筆と記を

官刻 六偷衍義 全一冊

同軍鑑 全四冊  
ひかかると

風月往來 同筆 全一冊  
町方書札入

官刻 六偷衍義大意 平らめ 全一冊

武家功者物語 全三冊  
ひかかると

庭訓往來 同筆 全二冊  
大字四行

六偷衍義小意 中村三近子 全三冊

八嶋物語 全二冊

愛蓮説 廣沢筆 行書

官刻 普救類方 全十二冊

繪本戲草 上りたての道とあつて  
描画しての戲草とて  
全三冊

商賣往來 全一冊  
玉置茂八筆



俳諧東風流

全七冊 前田春來集

御家流書札

全一冊

俳諧金平百韻

全一冊 寥太選

老子本義

藤原隱作 全二冊 明の邵弁如注とまじり其 尽る所と補ハ注と

老子答問書

老子学の大意を問答に 同作

俳諧續百番句合

全二冊 嵐雪馬光兩評

遣次顛沛抄

全五冊

龍門先生文集

全三冊 詩部

同文部

全三冊

俳諧標雜談

明田秀徳選 全二冊

七經孟子考文

官刻 全三十二冊 五經論語孝經并孟子の 宋校と明校の誤を正し

度量衡考

官刻祖徠作 全二冊 失城代との異同を考へ くりく記す

俳諧教訓百首

懐中本 全一冊 甚詭式古傳初巻 のあめりき集あろふ

麻利支天經

全一冊

俳諧新八家仙

宗匠六人 全一冊

伊呂波童蒙抄

全三冊 盛典作 いろはの極意を詳し あろふ

冠註萬葉全

同作 全五冊 日取吉岡の考へ はらひらひらと

和劑局方

官刻 全十二冊 局方教板異同有申先正と 也且総論指南原物の圖頭

醫學的

楚山先生撰 全二冊

阿弥陀如來出現記

盛典述りかか 全二冊

宗分禪師語録

全三冊

捷經辨義

沙門善時作 全一冊 真言密修の意を片づか せり

和文章

鳳岡先生書 全一冊

中書措訣

姜廷憲著 全一冊 筆法の意味と記と

芙蓉菴八勝帖

折本一冊 烏石先生筆 行書手本

真定本千字文

全二冊 烏石先生筆

登樓賦

同筆 八分字手本

大字八十四法

姜立綱著 烏石技合

七物帖

同筆行書 全一冊

禮部韻

烏石先生技開 高宗御書 全六冊

大般若經轉讀式

折本二冊

粥飯日用鉢式

旭昌述 全一冊 鉢式法度と考記と

遺身往來傳

諦聽述 全一冊 遺身の奇特と記と

略述法相義

全部三冊

大原問答科註

全部一冊

浄土聲明

全部一冊

大乘五蘊論

全一冊 大幻師技合

新刻草書千字文

烏石先生筆 全二冊

春臺碑帖

南郭先生作 全一冊 烏石先生筆

上父書

全一冊 同筆

諷誦指南 全部四冊

老子本義微

全二冊 甚盧隱先生著述

甲陽軍鑑傳解

全三十八冊 大全及其外未書家々 記録と引て註と

神代卷參疏

官刻 全八冊 藤兼良述

俳諧桃櫻

其角嵐雪追善の哥仙 宋阿集

俳諧硯沢

黒露作 全三冊 硯沢 蝦沢の紀行発句哥仙品々

同卷蒙

全一冊 芦宗匠月並発句 哥仙

東韓筆語

甲申朝鮮人筆談 山田圖南撰 全一冊

行書唐詩選

烏石先生筆 五言絶句 石刻全三冊

楠櫻并書

全一冊

あろふ

全二冊 横切本 江戸半太夫西とあろふ

俳諧軟隨筆

岡田米仲撰 全三冊

俳諧白兔餘稿

宗瑞撰 全二冊

俳諧 冬の夜 白兔園宗瑞撰 春の夜

全一冊

俳諧句靈寶

露月集 全三冊 月次并題取発句等品々

同寄進能

同集 全二冊 月次追加金玉の声音と ひろふ

同宮遷

同集 全二冊 月次あろふ追

俳諧愚痴問答

素丸撰 全一冊

同友安久羅

近世有名俳人 全一冊 四季発句品々 并哥仙

同有渡日記

有渡の紀行 全一冊 発句哥仙

同あゝ九菊 毛越集 全二冊  
俳諧文章八

同古よりれ 全二冊 芝葉翁五年忌  
発句文章 湖十集

童子寶鑑要字選 近刻

日本傳守行規 高山先生 全一冊

和号家八鶴 全五冊 出来  
石塚金子家集

鴻臚傾盖集 全一冊 龍門先生著  
成辰朝鮮筆談

泉山景境詩哥集 全冊 四  
繪堂上地下詩哥載

俳花笑 全一冊  
近刻

同何老姿 松花迷 全一冊

同松如の雪 立國集 全一冊

俳諧玄峰集 雪中菴嵐雪發句集 全二冊

同光山集 全一冊 雅堂句集  
馬光連句集

同芭蕉林 全一冊

俳諧夏秋 全二冊  
太極選

俳諧温故集 全二冊 連谷軒  
凡百年來古人発句并  
當時句加テ撰之

俳諧 桑々 蝶発句集 全二冊  
貞佐翁代句集

同反古拾遺 百華壇北遊 全二冊  
旧知佳句哥仙自作発句  
寺廣くあつたのす

同麓集 靈上連哥 全一冊  
俳諧の古句として発句を  
あつた

同玄々前集 古今歌句并文章も  
草異名の傳古人の説成  
のす 全二冊

同新句兄弟 発句と並其情と注して  
初心の便と 全一冊

同下り七煉 全三冊  
武藏野高句高志書拔  
江戸宗匠十評

俳諧芭蕉發句評林 全二冊  
勝此茶菴選評

七在所のう 全三冊  
いひ系宗家内大和の  
乃中宗家及宗内

漢隸分韻 全六冊 近日板行  
鳥石山人校

俳諧問答抄 全一冊 羊素作  
俳諧新式口語口傳

取肴小謡 全一冊  
琢敷二小謡と集む

同井蛙問答 半溪著 全一冊  
発句と問答一古人の  
語を引風流とあつた

同其砧 貞佐翁代句 有佐  
平砂集全三冊

同風乃末 其角嵐雪遠忌  
夢和集

俳諧古衾 全一冊  
北行阿選

